



JTC 1/SC 7のソフトウェア(品質) 工学標準化とともに30余年

東 基衛 早稲田大学理工学術院

ISO/IEC JTC 1/SC 7は、1987年にISO/IEC JTC 1の誕生とともに創設され、今年創設20周年を迎えた。しかし、SC 7自体はISO/TC 97/SC 7として発足し、1974年12月に最初の国際会議がパリで開催されているので、その歴史は33年となる。筆者が最初にSC 7の国際会議に参加したのは、1976年4月の第2回SC 7ベルリン会議である。この会議で、イギリスとアメリカの委員の意見が対立し、いたずらに時間を費やしていたので、拙い英語で調停案を提案したら、両者が喜んで問題が解決し、英語が母国語でなくても英語で貢献できると感じたのを今でも鮮明に覚えている。

筆者は、それ以来ほぼ毎年2回、すべてのSC 7国際会議およびSC 7/WG 3とSC 7/WG 6の国際会議に参加しており、SC 7の最長・最多会議参加メンバである。筆者が最初にSC 7の中でエディタの役割を担ったのは、1985年2月に行われたSC 7/WG 3のミュンヘン国際会議である。これが「ISO/IEC 9126：ソフトウェア製品の評価－品質特性とガイド」の始めである。

当時のSC 7は情報処理図記号 (ISO 5807) や決定表 (ISO 5806) を扱っていたが、「ソフトウェアの構造化図記号、ソフトウェアの品質評価などソフトウェア工学関連の標準化にシフトしてゆくべきだ」と会議で筆者が提案したのが受け入れられた。その結果、構造化図記号 (ISO/IEC 8631)、品質評価 (ISO/IEC 9126) およびソフトウェアライフサイクルプロセス (ISO/IEC 12207) などの新プロジェクトが開始された。

その後品質評価およびソフトウェアライフサイクルプロセスは分離され、前者はWG 3/SG 2からWG 6に、後者はWG 3/SG 3からWG 7になった。筆者はWG 3/SG 2から引き続きWG 6のConvenerに就任した。第1回のSC 7/WG 6国際会議は、1991年11月にイタリアのトリノで行われた。また、この年はISO/IEC 9126が出版された年でもある。

ISO/IEC 9126は、今日最も成功した国際標準の1つと言われているが、それだけに参加各国の関心も強く、9126を利用するための各種の標準・ガイドなどが必要であるとして提案され、シリーズとして整備されていった。その結果として品質モデルと品質メトリクスは9126シリーズ、また品質評価プロセス関連は14598シリーズとし

て出版された。また、その間、流通ソフトウェアの品質に焦点を当てたISO/IEC 12119も出版された。

これらの作業が一段落した1999年11月のWG 6金沢会議で、一連の国際標準の再評価を行い、いくつかの問題が指摘され、全体を1つのシリーズとして再構成する必要性が明らかになった。この結果は、翌年5月のSC 7マドリッド会議でSQuARE (Software Product Quality Requirements and Evaluation) シリーズとして提案し、承認された。この提案はITTFに報告され、ISO/IEC 25000～25099という一連の番号が自由にアサインできるようになった。これは、WG 6の成果が評価されたためと考えられる。

現在ではSC 7/WG 6は、毎年春秋2回の会議に約15カ国、25名が参加している。また、新規の参加者が多くいる一方で、きわめて長期間にわたり貢献を続けているメンバも少なくない。担当作業が多く最も忙しいWGとされているWG 6のメンバは、1週間の会議中、観光などの目的で外出することもほとんどなく、皆熱心に作業を行っている。

筆者は以上のような経過からConvenerとしてそれなりに成功してきたといささか自負している。WG 6の参加者すべてが会議の結果に満足し、気分よく帰国の途に着くために、筆者が心がけていることは、次の4点である。(1)方針、方向を明示する。(2)非英語国の人の意見をよく聴き反映させる努力をする。(3)参加者の役割分担をはっきりさせ、責任を持たせる。(4)意見が対立し、混乱したときに全員が受け入れられる調停案を示し調整をきちんと行う。

以上雑駁な思い出話になってしまったが、今後若い人たちが大いに活躍して、国際貢献を行うようになるのが、切なる願いであり、その参考になれば望外の幸せである。

(平成19年7月2日受付)

東 基衛 (正会員) | azumam@waseda.jp

1963年早稲田大学第一理工学部卒業、日本電気(株)入社。1980年同社ソフトウェア生産技術研究所管理技術開発部長。1987年早稲田大学理工学部工業経営学科教授。1988～96年情報規格調査会SC 7専門委員会委員長。1991年よりISO/IEC JTC 1/SC 7/WG 6 Convener。1996年情報規格調査会標準化功績賞受賞、工業標準化貢献による通商産業大臣表彰受賞。2002年よりカナダケベック州立モントリオールETS客員教授。2003～06年早稲田大学理工系英語教育センター長。